

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	荒川区区政改革懇談会	部課名	総務企画部総務企画課	課長名	小林 直彦
		担当者名	谷井・後藤	内線	2113
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	区政改革懇談会（01-06-01）				
事務事業の種類	新規事業（22年度 21年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 17年度	根拠	区政改革懇談会設置要綱		
終期設定	有 無 21年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	計画推進のために[ ]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	区民の区政参画の機会を拡大するため、幅広く区民から意見を聴くとともに、区政に関する政策提言を受ける。				
対象者等	区民(公募により委嘱した区政改革懇談会委員)				
内容	<p>【第1期】平成17～18年度、委員数約70名                      実施内容                      （平成17年度）荒川区の将来像について、世代・ライフスタイル別の6グループで検討・提言                      （平成18年度）「地域活性化・暮らしの安全分科会」「福祉・健康・子育て分科会」「まちづくり・環境分科会」「教育分科会」の4グループで、各施策別の具体的な検討・提言</p> <p>【第2期】平成19年度～、委員数50名（平成21年度は41名）                      テーマ 地域のコミュニティ力をいかに高めるか                      実施内容                      （平成19年度）今後の懇談会の進め方や地域コミュニティの現状と課題について議論                      （平成20年度）防犯、福祉、子育てにかかわる地域のコミュニティ力について、地域別グループで検討・提言                      （平成21年度）平成20年度の提言を基に、「地域の人材がコミュニティに参加するきっかけづくり」「地域の資源と地域の課題をコーディネートする仕組みと場づくり」「地域組織の連携と活性化のための仕組みづくり」の3グループに分かれ、区民が主体的に取り組むための企画を検討し、平成22年3月に区へ提案</p>				
経過	<p>【第1期】平成16年度 実施検討                      平成17年6月 委員公募                      7月～17年度懇談会開催                      平成18年2月 最終報告会開催(区長へ提言書提出)                      5月～18年度懇談会(分科会)開催                      平成19年3月 活動・提言報告会開催(区長へ提言書提出)</p> <p>【第2期】平成19年10月 委員公募・選考                      12月～19・20年度懇談会開催                      平成21年3月 提言報告会開催(区長へ提言書提出)                      5月～21年度懇談会開催(おおむね月1回程度開催)                      平成22年3月 提言報告会開催(区長へ提言書提出)</p>				
必要性	区民から幅広く意見を聴くツールとして有用であるが、区民との更なる協働の視点から、より効果的な仕組みを構築する必要がある。				
実施方法	( 2一部委託 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ) 19～21年度委託業者 (株)地域計画総合研究所(グループ討議進行役)				

		(単位：千円)						
		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
予算・決算額等の推移	予算額		2,930	3,336	4,518	5,579	5,597	209
	決算額(22年度は見込み)		242	3,267	3,024	4,867	4,858	209
	人件費		9,309	6,661	5,978	3,812	5,294	
	【事務分担量】(%)		108	78	70	45	65	
	合計(+)	0	9,551	9,928	9,002	8,679	10,152	209
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
その他(特定財源)								
一般財源	0	9,551	9,928	9,002	8,679	10,152	209	
実績の	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	懇談会開催数		45	29	3	10	10	

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	託児	26	託児	3	講師謝礼
食糧費	賄い	208	賄い	184	賄い	32	
一般需用費	消耗品費	0	消耗品費	0			
役務費	郵送料	0	郵送料	0			
委託料	運営支援委託等	4,518	運営支援委託等	4,567			
使用料	会場使用料	115	会場使用料	105	会場使用料	60	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	
標							

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 懇談会の委員であった者が地域活動を実践できるような側面支援が必要である。</li> <li>・ 特定分野ではなく、広く区政全般をテーマとしていることから、総論的・抽象的な議論に陥りやすい。</li> </ul>
他区の実施状況	（ 実施 区                      未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
懇談会で提言のあった内容について、委員であった区民自らが実現できるよう側面支援を行う。	区民自らが区政に参加するきっかけを作ることができる。
各所管部において効果的に区民の意見を聴取できるような仕組みづくりを検討する。	区民の参画を促進するとともに、区民ニーズを的確に把握することができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	休止・完了	これまでの形式による懇談会は終了とし、他の手法を含め、より効果的に区民の意見聴取を行う仕組みを検討する。

状況（要旨）	H17・三定           : 団塊世代の地域活動の支援として、市民活動基金の創設を H18・四定           : 団塊の世代の受け皿づくりと区の役割について H19・二定           : 団塊の世代を始めとする中高年の社会参加に向けた受け皿整備を H20・四定           : 団塊世代の参画を積極的に推進すべき H22・一定(予特)   : シルバーパワーの活用について H22・二定           : 「新しい公共」についての見解を問う
--------	--

事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	団塊の世代を中心とした地域活動の促進	部課名 担当者名	総務企画部総務企画課 谷井・後藤	課長名 内線	小林 直彦 2113
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	地域活動の推進（01-02-02）				
事務事業の種類	○新規事業（○22年度 ○21年度）		○建設事業	●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	18年度	根拠 法令等	荒川区地域活動支援事業補助金交付要綱	
終期設定	○有 ●無		年度		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画	
行政評価 事業体系	分野	計画推進のために[Ⅶ]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	団塊の世代の大量退職の時期を迎え、これらの人的資源を区政運営に生かす仕組みを整備するとともに、区民の地域活動を支援し、区民参画と協働の推進を図る。				
対象者等	定年退職後の区民、地域活動に関心のある区民				
内容	<p>1 地域活動サロン・ふらっと・フラットの運営補助          (目的) 団塊の世代を中心とする区民の地域活動を支援する事業の実施に要する費用の一部を補助することにより、区民の地域活動を支援し、地域の活性化に資する。          (運営) 荒川区社会福祉協議会          (開設) 平成19年9月          (場所) 生涯学習センター1階          (開所日) 週4日(火・水・金・土) 午後1時～9時          (内容) ・地域活動の拠点となるサロンの運営          ・地域活動に関する情報提供、相談、コーディネート</p> <p>2 団塊世代活動支援コーナーの運営          (目的) 団塊の世代を始めシニア世代の区民を対象に、地域活動等に関する支援を行う。          (開設) 平成19年11月          (場所) 本庁舎2階情報提供コーナー内          (開設日) 月～金曜日、午前8時30分～午後5時15分          (内容) ・地域活動や就労等に関する相談・情報提供・庁内関係課及び関係機関の紹介</p>				
経過	平成18年度	ハローワーク足立、東京しごと財団等関係機関調査、先進自治体視察「団塊の世代の今後の就業等に関するアンケート調査」の実施（19年1月）			
	平成19年度	ふらっと・フラットの開設、荒川区地域活動支援事業補助金要綱の制定（9月） 団塊世代活動支援コーナー開設（11月）、関係機関連絡会の開催（2回）			
	平成20年度	南千住図書館における団塊世代の図書特集の開催（1～3月） 関係機関連絡会の開催（2回）			
	平成21年度	区報「地域活動特集号」の発行 関係機関連絡会の開催			
必要性	団塊の世代を始めとする区民が地域で活動するための後押しとなる支援を行うことにより、本人の自己実現や地域の活性化につながることから、その必要性は高い。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ○常勤 ●非常勤 ○臨時職員) (ふらっと・フラット) 社会福祉協議会に対する運営費補助 (団塊世代活動支援コーナー) 地域活動専門相談員による相談・情報提供				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
予算額	—	—	2,043	17,291	10,283	11,240	10,561	
①決算額（22年度は見込み）	—	—	1,512	9,906	9,344	10,076	10,561	
②人件費			6,661	3,501	4,135	3,258		
【事務分担量】 (%)			78	41	120	40		
合計（①+②）	0		8,173	13,407	13,479	13,334	10,561	
国（特定財源）								
都（特定財源）						5,328		
その他（特定財源）								
一般財源	0		8,173	13,407	13,479	8,006	10,561	
実績の推移	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	荒川区地域活動支援事業補助金交付額		—	—	7,926	5,932	6,448	7,112

事務事業分析シート（平成22年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	地域活動専門相談員報酬	3,046	地域活動専門相談員報酬	3,046	地域活動専門相談員報酬	3,046
	需用費			区報特集号	583		
	負担金補助	地域活動支援事業補助金	5,932	地域活動支援事業補助金	6,448	地域活動支援事業補助金	7,112

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	
標	① 団塊世代活動支援コーナー受付数（件）	57	263	75	100	100	平成21年度の4～5月は仕事・生活サポートデスクで対応
	② ふらっと・フラットの利用者数（人）	886	1,907	2,032	2,200	2,500	1か月当たり150人を目標とする
	③ ふらっと・フラットを拠点に活動するグループ数	3	4	8	8	15	

（問題点・課題）	<p>○団塊世代活動支援コーナーでは就業相談が多く、地域活動に関する相談が少ない状況にある。</p> <p>○ふらっと・フラットで芽生えた地域活動の動きを単発で終わらすことなく、広げていく必要がある。</p> <p>○平成22年10月に開校する「荒川コミュニティカレッジ」の受講生や卒業生が、円滑に地域活動を始めることができるような支援体制が求められている。</p>
	<p>（実施 7 区 未実施 15 区）</p> <p>足立区 「団塊世代情報サイト」（協働推進課による単独のホームページを運営）</p> <p>世田谷区 「生涯現役プロジェクト」（生涯現役推進課によるホームページ運営、ワークショップの実施等）</p> <p>杉並区 長寿応援ポイント</p> <p>目黒区 ふれあいサポーター養成講座</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	団塊世代活動支援コーナーの対象拡大や支援内容の見直しを検討する。	対象拡大や支援内容の見直しにより、これまで以上に有効に活用されるようになる。
②	ふらっと・フラットを拠点に活動するグループ間における情報の共有化やネットワーク化の促進を図る。	各グループの活動の輪を広げ、相乗効果を生むことができる。
③	荒川コミュニティカレッジとの連携講座の実施や受講生・卒業生が学んだ知識を実践に生かせるような仕組みを構築する。	荒川コミュニティカレッジの受講生が講座で得た知識やネットワーク等を地域活動へ活かすことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	改善・見直し	区民による地域活動をより適切に後押しできるよう、改善・見直しを図りながら実施する。

況 議 会 質 問 状 （ 要 旨 ）	H17・三定	: 市民活動基金の創設について
	H18・四定	: 団塊の世代の受け皿づくりと区の役割について
	H19・二定	: 団塊の世代を始めとする中高年の社会参加に向けた受け皿整備について
	H20・四定	: 団塊世代の参画の推進について
	H22・一定(予特)	: シルバーパワーの活用について
	H22・二定	: 新しい公共について

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	地域活動支援事業	部課名 担当者名	総務企画部総務企画課 谷井・後藤	課長名 内線	小林 直彦 2113
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	地域活動支援事業（01-02-07）				
事務事業の種類	●新規事業（●22年度 ○21年度） ○建設事業 ○それ以外の継続事業				
開始年度	○昭和 ●平成 22年度	根拠			
終期設定	○有 ●無 年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画	
行政評価事業体系	分野	計画推進のために[Ⅶ]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	区民の区政参画の機会を拡大するとともに、区民自らが行う地域活動を促進する。				
対象者等	区民団体等				
内容	<p>現在、防犯や防災、子育て支援、環境、福祉、緑化等区政にも関わりのある様々な分野で地域活動が活発に行われている。 こうした取組を更に推進していくため、協働に関する指針づくりを始め、地域活動に対する具体的な支援を検討し、実施していく。</p> <p><b>【主な地域活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい館におけるボランティア</li> <li>・防犯パトロール</li> <li>・観光ボランティアガイド</li> <li>・環境サポーター</li> <li>・資源の集団回収</li> <li>・健康リーダー</li> <li>・子育てサポーター</li> <li>・産後支援ボランティア</li> <li>・駅たま</li> <li>・あそびサポーター</li> <li>・まちづくり協議会</li> <li>・防災まちづくり協議会</li> <li>・グリーンサポート</li> <li>・街なか花壇づくり</li> <li>・都電沿線のバラの管理</li> <li>・音訳奉仕</li> </ul>				
経過					
必要性	区民の区政参画の機会の拡大を図りながら、多様化する区民ニーズに的確に応えていくために必要な取組である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 補助金要綱を策定し、公募を行った上で、地域活動事業に対して補助金を交付する。				

		（単位：千円）						
		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
予算・決算額等の推移	予算額							3,000
	①決算額（22年度は見込み）							3,000
	②人件費							
	【事務分担量】（%）							
	合計（①+②）	0	0	0	0	0	0	3,000
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	3,000	
実績の推移	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	補助グループ数							3

事務事業分析シート（平成22年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	その他の補助金					地域活動支援補助金	3,000

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	
①	区と連携した活動の新規取組件数				1件	5件	
②							

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働の地域づくりを推進していくためには、区と区民・区内団体の相互理解が必要不可欠であり、日頃から様々な形で区政にご協力頂いている方々と更に連携を図っていくための糸口を探っていく必要がある。</li> </ul>
	<p>（実施区 未実施区）</p>
他区の実施状況	

問題点・課題の改善策検討		
	平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	協働に関する指針を策定し、啓発を行う。	協働の風土が広め、区民が互いに支えあう社会を構築することができる。
②	地域活動を実践している多くの人財活用を図るための仕組みづくりを行う。	地域力を活用して街づくりに取り組むことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
—	推進	区民との協働による街づくりを積極的に進めていく。

議 会 （ 要 質 問 状 況）	H17・三定	: 団塊世代の地域活動の支援として、市民活動基金の創設を
	H18・四定	: 団塊の世代の受け皿づくりと区の役割について
	H19・二定	: 団塊の世代を始めとする中高年の社会参加に向けた受け皿整備を
	H20・四定	: 団塊世代の参画を積極的に推進すべき
	H22・一定(予特)	: シルバーパワーの活用について
	H22・二定	: 「新しい公共」についての見解を問う

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	区功労者表彰	部課名	総務企画部秘書課	課長名	米澤貴幸
		担当者名	小倉 裕司	内線	2005
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	区功労者表彰（05-29-50-01）				
事務事業の種類	新規事業	（ 22年度 21年度 ）	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	35 年度	根拠	荒川区表彰規則
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区表彰要綱
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	計画推進のために[ ]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	区の振興・発展に特に功労があった者の事績をたたえることにより、区民の福祉の増進に資することを目的とする。（荒川区表彰規則第1条） 区の振興・発展に特に功労があった者に対して、その功績をたたえ、区民の「ふるさと意識」を高めようとするもの				
対象者等	顕著な功績または模範として、推奨するにふさわしい業績もしくは善行のあった者 （平成15年度）138名（平成16年度）140名（平成17年度）172名（平成18年度）160名 （平成19年度）160名（平成20年度）121名（平成21年度）128名 前鴨川市長に特別感謝状				
内容	1 区功労実施内容[被表彰者数：128名（一般117名、活動3名、特別7名 特別感謝状1名）] (1)日 時 平成21年11月18日 午前11時～（平成20年度は11月26日に実施） (2)場 所 ホテルラングウッド 2階 ラングウッドルーム 式典・祝宴 (3)招待者 特別来賓者 区議会正副議長・衆議院議員・都議会議員・区内官公署長等 一般来賓者 推薦者・区議会議員・行政委員等 (4)表彰式 表彰状、記念品の授与（東京藝術大学等による演奏あり） 記念品：漆塗おはしペアセット（一般、活動）、銀製スプーン、フォーク、ナイフセット（特別功労） 2 議員表彰実施内容[被表彰者数：4名（一般3名、特別1名）] (1)日 時 平成19年10月17日 午後4時～ (2)場 所 区長応接室 (3)招待者 なし (4)表彰式 表彰状、記念品の授与 記念品：扇子ペアセット（一般）、竹製・花かご（特別功労）				
経過	昭和60年度 表彰規則・要綱の一部改正（被表彰対象者の拡大） 平成 3年度 表彰規則・要綱の一部改正（区議会議員表彰基準の改正により特別功労者表彰の実施） 平成 6年度 表彰規則の一部改正（要綱の廃止、制定 分野別表彰実施） 平成 9年度 会場をサンパールからセレス西日暮里に変更 平成12年度 表彰規則・要綱の一部改正（題名及び組織改正による表彰区分の改正） 平成14年度 表彰規則・要綱の一部改正（特別賞の新設及び組織改正による事務局名の改正） 平成17年度 表彰規則・要綱の一部改正（活動賞の新設及び組織改正による事務局名の改正） 荒川区交響楽団による弦楽四重奏を実施 平成18年度 会場をセレス西日暮里からホテルラングウッドへ変更（セレス西日暮里がメモリアルホールとなったため）記念品を荒川ブランドの品物に変更 平成20年度 東京芸術大学による弦楽四重奏を実施				
必要性	区の振興・発展に特に功労があった者の実績をたたえ、区民の福祉を増進するため必要である。				
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）										
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度				
予算額	4,754	8,362	5,336	5,372	4,395	4,906	5,431				
決算額（21年度は見込み）	4,309	5,980	5,031	5,068	4,050	4,794					
人件費		690	854	854	847	651					
【事務分担当量】（%）		8	10	10	10	8					
合計（+）	4,309	6,670	5,885	5,922	4,897	5,445	0				
国（特定財源）											
都（特定財源）											
その他（特定財源）											
一般財源	0	6,670	5,885	5,922	4,897	5,445	0				
実績の推移	事項名				16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
特別 学校 文化 善行	自治 商工 消防 社福	保健 社教 環境 無形	地域 街 税務 活動	4 4 0 43	4 12 5 67	4 3 0 48	10 7 0 63	7 4 1 29	7 2 - 36		
				6 8 12 0	3 4 13 0	5 9 21 1	5 2 14 3	7 0 29 2	4 4 13 1		
				9 10 8 4	12 4 6 4	13 6 5 3	25 2 5 3	12 3 1 4	9 2 5 4		
				0 31 1 -	1 31 1 5	3 34 1 4	2 15 1 3	3 14 1 4	1 35 1 3		

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	報償費	式典出演料一式	44	式典出演料一式	55	式典出演料一式	80
	食糧費						
	需用費	記念品	2,201	記念品	2,511	記念品	3,276
		記念バッチ	64	記念バッチ	0	記念バッチ	180
	印刷製本費	案内状等印刷	113	案内状等印刷	118	案内状等印刷	111
	役務費	表彰状等筆耕	134	表彰状等筆耕	180	表彰状等筆耕	280
	委託料	会場設営委託等	1,468	会場設営委託等	1,489	会場設営委託等	1,504

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
在職年数や年齢制限を設けず、推薦は各所管が行なう「活動賞」を平成17年度に新設したので、対象となる方々の把握に努める。	区への功績が多大であるが団体に属していない個人や一般功労に該当していなかった方々を推薦・表彰できることで、より一層、区民福祉の増進に資することが期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	昭和35年から永年にわたって続けてきた制度であり、地域に広く定着しており、地域貢献等をなされている方々を表彰することにより、区として感謝と敬意を表すものである。また、区民の方々の自主的な地域活動等を進めるきっかけづくりとしても、続けることが必要である。

況議（要質問状）	
----------	--



# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	新年祝賀会	部課名	総務企画部秘書課	課長名	米澤貴幸
		担当者名	茂手木 栄一	内線	2004
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	新年祝賀会（01-06-01）				
事務事業の種類	新規事業（22年度 21年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	不明	年度	根拠
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	計画推進のために[ ]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	年頭に当たり、日頃、荒川区の発展に寄与している各界・各層の代表者を招待し、区政への理解・協力を得ることを目的として開催する。				
対象者等	荒川区の発展に寄与している各界の代表者 平成18年度 招待者数 約1,638人 来場者数 約660人 平成19年度 招待者数 約1,659人 来場者数 約750人 平成20年度 招待者数 約1,633人 来場者数 約870人 平成21年度 招待者数 約1,713人 来場者数 約800人				
内容	(1)日時 毎年1月4日 11時～ (2)場所 ホテルラングウッド（ラングウッドルーム） (3)招待者 国・都・区議会議員、区内官公署長、行政委員、町会長、民生委員、保護司、その他の公共団体の長、区民栄誉賞受賞者、叙勲受章者、荒川区ゆかりの文化・スポーツ・芸能人等 (4)区制75周年事業 20年新年祝賀会では、荒川区シンボルマークの発表を行った。				
経過	区の発展に寄与していただいている各界の代表者を招待して実施している新年祝賀会への招待者数は、1,600名を超え（出席者は年650名～800名程度）、新年祝賀会の現状からすると、区内で対応できる会場はホテルラングウッドしかないことから、平成3年度から祝宴会場をサンパール荒川からホテルラングウッドに変更し、開催している。 平成17年度から東京荒川少年少女合唱隊による合唱および荒川区民交響楽団による弦楽四重奏を行い、平成20年度からは東京荒川少年少女合唱隊による合唱および東京藝術大学による弦楽四重奏を行うこととし、各界の代表が一堂に会する少ない機会を活かし、区内における文化活動をアピールする場を提供するという、従来の賀詞交換に加え新たな試みを実施した。				
必要性	荒川区の発展に寄与している各界・各層の代表者の区政への理解・協力を求めるために必要である。				
実施方法	（一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） ホテルラングウッドに会場設営等一式を委託				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
予算額	3,141	2,936	3,260	3,104	3,325	3,325	3,306	
決算額（22年度は見込み）	3,101	2,894	2,897	2,991	3,227	3,230	3,306	
人件費		431	427	427	427	407		
【事務分担量】（%）		5	5	5	5	5		
合計（+）	3,101	3,325	3,324	3,418	3,654	3,637	3,306	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	3,101	3,325	3,324	3,418	3,654	3,637	3,306	
実績の推移	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	来場者数（人）	600	650	660	750	870	800	
	招待者数（人）	1,538	1,624	1,638	1,659	1,633	1,713	
	出席率（%）（÷×100）	39.0	40.0	40.3	45.2	53.3	46.7	

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	報償費	手話通訳・出演者謝礼	80	手話通訳・出演者謝礼	80	手話通訳・出演者謝礼	131
	一般需用費	新年祝賀会案内状	55	新年祝賀会案内状	55	新年祝賀会案内状	63
	委託料	祝賀会会場設営委託	3,092	祝賀会会場設営委託	3,095	祝賀会会場設営委託	3,112

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	
出席率		40%	40%	40%	40%	40%	

（問題点・課題 指標分析）	
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区） 会費制実施（江東区、板橋区、足立区、新宿区、練馬区、豊島区、墨田区）

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	荒川区の発展に寄与していただいている各界・各層の代表者の区政への理解・協力を得るために必要である。

議（要旨） 況（質問状）	
-----------------	--